

Europe Indicators

発表日: 2022 年 7 月 29 日(金)

欧州経済指標コメント: 4-6 月期ユーロ圏GDP

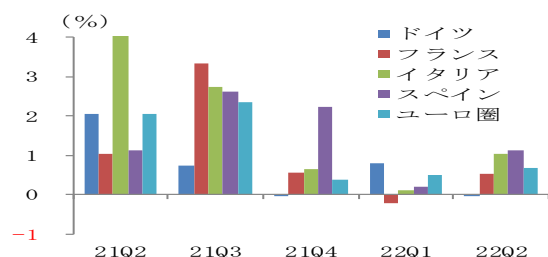
～予想外のリバウンドも先行きの減速は不可避～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

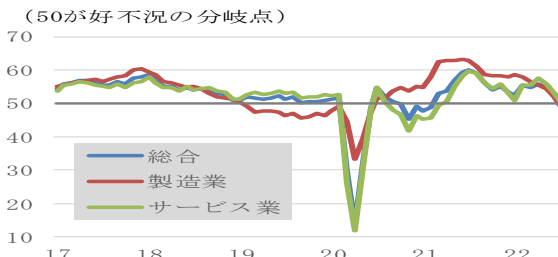
- 4-6 月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.7%、同年率+2.8%と、前期の同+0.5%、同年率+2.0%から予想外に加速した。既報の国別計数は、ドイツ（前期：同+0.8%→今期：同ゼロ%）が遡及改定で前期が大幅に上方修正された影響もあり、成長にブレーキが掛かったものの、フランス（同▲0.2%→同+0.5%）がプラス成長に復帰し、イタリア（同+0.1%→同+1.0%）とスペイン（同+0.2%→同+1.1%）で成長が加速した。
- 需要項目別の内訳が公表済みのフランスでは、個人消費（同▲0.2%）と政府消費（同▲0.2%）が成長を下押しした一方、総固定資本形成（同+0.5%）、在庫投資（同寄与度+0.1%ポイント）、純輸出（同寄与度+0.4%ポイント）がこれを相殺。個人消費は、経済活動再開と旅行需要回復でサービス消費が増加した一方、物価高を背景に財消費が足を引っ張った。純輸出のプラス寄与拡大は、海外からの観光客増加で輸出（同+0.8%）が拡大したことに加えて、輸入（同▲0.6%）の減少が影響。ドイツでは個人消費と政府消費が増加した一方、外需が成長の足枷となった。スペインでは個人消費や設備投資が増加し、輸入増加による外需の押し下げを相殺。
- 事前予想では成長減速を予想する見方が多かったが、経済活動再開によるサービス需要の増加と海外からの観光客の増加が成長を押し上げた。もっとも、7月のユーロ圏のPMIが好不況の分岐点割り込むなど、今後の景気には一段のブレーキが掛かる公算が大きい。物価高騰による家計心理の大幅悪化に加えて、ガス不足への警戒から先行き不透明感が高まっている。観光シーズンが本格化するなか、航空各社が人出不足で減便を余儀なくされていることも観光需要の足枷に。

■ ユーロ圏主要国の実質GDP成長率(前期比)



出所: Eurostat

■ ユーロ圏の企業景況感(PMI)の推移



出所: S&P Global

■ ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				在庫	外需		
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫		輸出	輸入	
20/7-9月期	55.2	61.9	(52.5)	70.0	22.5	77.6	(▲5.4)	9.4	87.1	60.8
20/10-12月期	1.0	▲1.6	(▲0.7)	▲11.4	2.5	14.6	(2.2)	▲0.9	20.1	24.8
21/1-3月期	2.1	▲0.4	(▲2.4)	▲8.8	0.1	▲7.1	(4.1)	2.0	1.0	▲3.2
21/4-6月期	10.6	8.5	(8.8)	16.2	7.6	6.0	(▲2.1)	▲0.3	12.4	14.5
21/7-9月期	14.8	9.7	(8.2)	19.5	0.8	▲2.8	(▲1.1)	1.5	8.7	6.1
21/10-12月期	4.9	1.6	(4.7)	▲0.9	1.3	15.1	(1.9)	▲3.1	11.5	20.5
22/1-3月期	5.7	2.0	(0.2)	▲1.6	▲0.9	▲2.1	(1.7)	1.8	1.5	▲2.0
22/4-6月期	-	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

